

NISA成長投資枠戦略 2026年版

テーマ：フィジカルAI

総投資額：240万円

投資テーマ

フィジカルAIとは、AIが現実空間で物理的な判断と行動を自律的に行う技術領域を指す。従来の生成AIが情報処理に留まっていたのに対し、フィジカルAIは工場、物流、インフラ、建設、防災といった実世界へ直接実装され、労働そのものを代替・再構築する段階に入っている。背景には、世界的な人手不足の深刻化、製造業の高度自動化要求、AI半導体の実用コスト低下がある。特に日本では、労働人口減少と高付加価値化の同時達成が不可避であり、フィジカルAIは単なる技術革新ではなく産業構造転換の中核となる。本戦略では、ロボット本体ではなく、稼働を支え続ける部材、制御、現場実装に焦点を当て、社会実装の進展とともに収益が積み上がる領域を投資対象とする。

戦略方針

本戦略はフィジカルAIを「頭脳」「神経」「身体基盤」の三層構造として捉える。単一技術や話題性への集中投資は行わず、稼働時間と導入台数の増加に比例して価値が拡大する分野を中核に据える。短期的なテーマ循環や株価変動は考慮せず、社会実装の進行に伴う需要の不可逆性を重視する。特に、消耗・更新が前提となる部材、現場での制御と安全性を担う企業を主軸とし、AI導入が進むほど収益機会が拡張する構造を構築する。

見解

フィジカルAI市場は、実証段階から実装段階へ移行しつつあり、今後は技術力そのものよりも「止まらずに使われ続けるか」が企業価値を分ける。ロボット本体や汎用AIは中長期的にコモディティ化が進む一方、稼働を支える部材、制御、インフラ連携の領域は価格競争に陥りにくい。市場は依然として生成AIの延長線で評価を行っており、現場実装型企業の価値を十分に織り込んでいない。本戦略は、この評価ギャップを前提に、導入拡大とともに利益が積み上がる企業へ資金を配分する。フィジカルAIは一過性テーマではなく、労働と産業の再設計であり、投資判断は中長期視点で行う。

投資分配プラン

分類	銘柄（コード）	投資額（万円）	コメント
本命	JMACS (5817)	60	ロボットの神経系となる屈曲ケーブルを供給 稼働台数増加がそのまま需要拡大に直結する
本命	安川電機 (6506)	50	産業ロボットの量産と現場実装を担う中核 AI高度化が進むほど稼働価値が高まる
準主役	オムロン (6645)	45	センサーと制御で現場判断を支える役割 安全性と信頼性が求められる領域を握る
準主役	PCIホールディングス (3918)	45	組み込みAIによる意思決定層を担う 現場実装前提の制御需要を取り込む
仕込み	フジクラ (5803)	40	高機能配線で電力とデータを支える AIとロボの同時拡張に対応できる基盤企業

強弱補正メモ

強気補正（+）

- ・JMACS
- ・安川電機

弱気補正（-）

- ・ロボット本体単独モデル
- ・補助金依存型AI関連

寸評まとめ

- ・JMACS (5817) :

フィジカルAIの稼働を支える屈曲ケーブルを供給する。

消耗前提の部材であり、導入拡大と利益成長が連動する点が強みだが、設備投資動向には注意が必要。

- ・安川電機 (6506) :

産業ロボットを現場で量産・運用する中核企業である。

実績と信頼性が強みだが、景気循環の影響を受けやすい。

・オムロン（6645）：

センサーと制御技術でAIの判断精度を支える。

安全性要求の高い領域に強い一方、成長スピードは緩やか。

・PCIホールディングス（3918）：

組み込みAIによる制御と判断を担うソフトウェア企業。

評価余地は大きいが、規模拡大には時間要する。

・フジクラ（5803）：

電力とデータをつなぐ配線で基盤を支える。

複数テーマに跨る強みがある反面、テーマ純度は低い。

総括

フィジカルAIを機能分解し、稼働を止めない基盤に資金を配分することで、社会実装の進展を長期で取り込む戦略とする。